

こだま

福岡小児歯科集談会会報

第 38 号

発行 令和2年3月15日

発行者 会長 二木 昌人

福岡市中央区薬院4-1-26-2F

ふたつき子ども歯科

TEL:092-523-7560

E-mail: fc-dental@san.bbiq.jp

巻 頭 言

『新しい時代の小児歯科に向けて』

もうり小児歯科 毛利 元治

本会は昭和55年（1980年）に西日本小児歯科集談会として発足して、今年で40年を迎えるのですね。その間に、九州小児歯科集談会、福岡小児歯科集談会と名を変えて現在に至ります。私自身もこの時期に九大中田教室にお世話になりました。

この40年間に、子どもの口腔環境は大きく変わり、「虫歯の洪水」と言われた激しい虫歯も軽症化が進みました。私もタービンで歯を削るのは週に数例だけです。その一方で、摂食や呼吸、発音に問題のある子に、「口腔機能発達不全症」が保険診療に新設されました。

ただ、子どもの口腔機能の問題は今に始まったものではありません。本会発足時の1980年ごろは、TBSの保育園児調査で「かまない子、かめない子」の問題が話題になり、厚生省の「離乳の基本」、ZickefooseのMFT講習会など、口腔機能の発達支援に向けた話題が重なりました。金子先生らが著書「食べる機能の障害」でバンゲード法などを紹介したのもこの時期です。



一方、私の診療室では、子どもの対応方法に悩んでいました。治療時に開口維持が難しいために開口器を用いたり、多量の唾液を出す子や嘔吐する子が増えたように感じました。私自身の対応の悪さも原因かもしれませんが、よく見ていると、口唇が過度に緊張または弛緩、低舌位、口呼吸など、口腔の機能異常を疑う子が多いと思いました。安全で快適な診療のためにも、目の前の子の口腔機能の把握が必要でした。

そこで、離乳開始時の口唇捕食について、スプーンから麦茶を取り込む捕食状態を観察しました。視診だけに頼る診査ですが、幼児と小学生の約7割に捕食機能の問題が疑われ、年齢差も見られませんでした。そのため、すべての子と保護者を対象に安全な診療と、生後の学習で身に付ける捕食機能の獲得支援を目的に、スプーンの口唇捕食とMFTのスポットやポップングなどの指導を続けています。（写真左上）

写真右下は30年前の資料です。これから指導を始める方は、10か月前後の赤ちゃんを試すことをお勧めします。目の前で、上唇を下ろして取り込む口唇捕食の獲得過程を見る機会が多くあります。この赤ちゃんも、今は30才のすてきな男性になっていると思います。可愛いし、理解も進みやすいですよ。



● 会長挨拶 ●

福岡小児歯科集談会 会長 二木 昌人

<かかりつけ歯科>

歯科における定期健診は、う蝕や歯周病予防という概念の浸透とともに、大人子どもに関わらず一般化してきていると思います。

小児歯科は歯科では新しい専門分野でしたので、特にアメリカから学んで、そこに定期健診による予防の概念も付属していたのだろうと推測します。う蝕予防が中心ではありましたが、定期健診と予防という概念は小児歯科が先んじていました。

以前は治療が多いため、予防は付け足し的なものにならざるを得ませんでした。しかし、現在では予防の流れがメインで、予防できない部分は治療せざるを得ない、という時代になりつつあります。

小児を含む一般歯科の場合、年齢に関わらず患者さんを継続的に診ていくことは可能です。しかし、専ら小児を診ている専門医の場合、患者さんの高校卒業くらいのタイミングで、切れてしまうことが多々あるのではないのでしょうか。これではもったいない。

小児歯科医としては、この時期までに患者さん自身の口腔ケアの自立を図りたいと考えているはずですが、ライフサイクルを考えると最初の数分の一に過ぎません。自立できていたとしても、特に歯周病予防を考えると、まだまだこれからです。

成人からの定期健診やメンテナンスを継続できるような歯科の受け皿、そして小児歯科医からのスムーズな連携が必須です。

それと、なかなか難しいのですが、最も永久歯う蝕リスクが高く、また将来の歯周病早発を予感させる時期でもある中学高校の時期の患者さんの健康観を育むのは、小児歯科医の役割ではないでしょうか。



平成31年度 (令和元年度) 福岡小児歯科集談会総会の報告

日時：平成31年4月17日(水) 19時00分～
場所：エルガーラホール 7階 会議室1

会長挨拶の後、議長選出が行われ、以下の議事について報告および説明がされた

*平成30年度事業報告(平成30年4月～平成31年3月)(二木会長)

- 平成30年 4月 総会 講演会(太田 由美さん、友重 文子さん)
- 7月 講演会(松本 敏秀先生・藤瀬 多佳子先生)
- 9月 歯科医師対象セミナー(中田 稔先生・石倉 行男先生)
- 11月 講演会(小川 厚先生)
- 平成31年 2月 講演会(緒方 祐子先生)
- 3月 会報誌「こだま」発行

*平成30年度会計報告(安藤先生)および会計監査報告(勝俣先生)

*平成31(令和元)年度事業計画(二木会長)

- 平成31年 4月 総会 講演会(筒井 昭仁先生)
- 7月 講演会(本川 渉先生)
- 10月 講演会(講師：未定)
- 令和2年 2月 歯科医師対象セミナー(講師：未定)
- 3月 会報誌「こだま」発行

*平成31(令和元)年度予算案(安藤先生)

以上の議案は、すべて出席者の承認を得られ、議決された。

総会后講演会

日時：平成31年4月17日（水）

演題

場所：エルガーラホール

来院者・術者の双方に
安心なフッ化物利用

7階 会議室1

講師：NPO法人ウェルビーイング村属研究所主席研究員

参加者：25名

筒井 昭仁 先生

虫歯予防のためのフッ化物は、歯科治療の中でも最も重要な存在の一つです。私たちが積極的に患者さんに勧めている一方で、「フッ化物は害である」という新聞や、ネットの記事などが氾濫しています。筒井先生は、フッ化物の歴史とその安全性について、多くのエビデンスを提示され説明してくださいました。幼児期から高齢者まで幅広く使用が可能のため、フッ化物の複合応用が虫歯予防に必要不可欠な存在と再認識致しました。



フッ化物応用の歴史は今から120年前にさかのぼり、当時はフッ化物と虫歯予防の因果関係が分からず、水道の中の成分に何かしらの虫歯予防の効果があるだろうという程度だったということです。そして80年ほど前に、フッ化物と虫歯には相関関係があるとわかり、現在では、90%以上の市販の歯磨き粉に配合されるまでに至りました。「フロリデーション」の一環として、水道水にフッ素を添加する試験でも、う蝕を50~70%予防し、全身の健康に問題がないという結果をもとに、「20世紀の偉大な10大公衆衛生事業の1つ」となっていることを、重視するべきだということです。

ただやはり日本では、学校での集団フッ化物洗口実施率はまだ低いのが現状であることを憂慮されていました。虫歯予防のプロフェッショナルである私たちが、フッ化物についての誤った認識を払拭する正しい情報をしっかり説明していく必要があること、そして、患者さん・保護者にフッ化物の効果的な使用方法を伝え・定着させていくことで、国民の口腔保健の向上に大きく寄与できることを、強調されていました。



あんどう歯科小児歯科 安藤 悠

講演会

日時：令和元年7月10日（水）

午後7時30分～9時

場所：福岡県歯科医師会館

4階 第4会議室

参加者：28名

演題

幼若永久歯外傷への対応

講師：福岡歯科大学 名誉教授

本川 渉 先生

最初に、現在多くのコンセンサスが得られるようになった幼若永久歯の外傷への対応について、その経緯を説明して下さいました。歯の外傷のバイブルといわれるAndreasenの著書「Textbook and color atlas of traumatic injuries to the teeth」が、1995年に東京で第6回国際外傷歯学会が開催された折、その翻訳書も出版されたこと。その後、国際外傷歯学会（IADT）や日本外傷歯学会のガイドラインなども利用できるようになったことなどが挙げられるということです。

その後、先生ご自身のご経験とその後の研究の中から、永久歯の歯冠破折、陥入、脱臼に対する、基本的治療法と臨床的な治療経過や組織的経過を分かりやすく説明して下さいました。

また、アペキシフィケーション、パルプ・リバスクラリゼーション、トランジェント・アピカル・ブレイクダウン（TAB）・リコールネーションなどの最新のテクニックなどを詳しく紹介して下さいました。

分かりやすい画像と臨床例を提示して下さい、外傷歯の治療法や、その治療の結果に生ずる予期せぬ臨床症状への日頃の私の疑問が、クリアになり大変すっきりしました。

あんどう歯科小児歯科 安藤 匡子



日時：令和元年10月9日（水）

午後7時30分～9時

場所：福岡県歯科医師会館

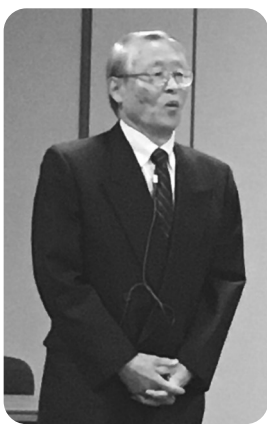
4階 中ホール

参加者：19名

演題

くしざしの心

講師：堀田謙一郎先生（歯科医師福岡市）



堀田先生は、先生ご自身がデール・カーネギー・コースを受講なさった際、漢字「患」の字の意味は、『診療所に来院される患者さんは、歯が悪いだけでなく、「心」にも「くし（串）」がささっているのですよ。』というフレーズに感銘を受けたということでした。講演では、患者さんの心の串を抜いてあげるような心使いについてや、周りの人々との人間関係をスムーズにいかせるための考え方などを、お話して下さいました。

数々の偉人の格言と、堀田先生の臨床場面でのエピソードを交えながら、相手を思いやる診療の重要性を強調され、心の持ちようなどを紹介して下さいました。

私が改めて、認識した言葉は、「人間関係が上手くいかないとき、これは、自分のせいである。」「自分の過去と、他人の心は変えることはできないので、自分を変えることが、大切だ。」「相手に笑顔がないのは、自分に笑顔がないからだ。」の三つでした。どれもよく耳にする大切な言葉ですが、先生の講演を拝聴して、明日からの診療にしっかり生かして行かなければいけないと再認識致しました。

あんどう歯科小児歯科 安藤 匡子

日 時：令和2年2月2日（日） 演 題

午後2時30分～4時30分

場 所：福岡県歯科医師会館

歯科治療で注意すべきアレルギー

4階 第4会議室

参加者：14名

講 師：手塚 純一郎 先生

まず、最近のアレルギーの動向や、その予防対策、治療法などについて説明いただきました。

アレルギー疾患は統計的にも増加しており、食物アレルギーが最も多いこと、実は皮膚を介した感作が多いため、皮膚のバリア機能を低下させないための正しいスキンケアが重要であることなどです。また、食物アレルギーなどが発症した場合、避けるのではなく乳幼児期の免疫学習能力を利用した方が緩解するというのが最近の考え方だそうです。

また後半では、歯科治療中に遭遇する可能性のあるアナフィラキシーショックについて、どのような症状の時がそうか、また実際発症したらどう対応するか、など先生には詳説して頂きました。

また、歯科使用薬剤、材料などでアレルギー誘発の可能性があるものの成分およびその一覧を示して頂きました。最後に、エピネフリン筋注の「エピペン」使用のデモで終了しました。

医院スタッフとも知識や対処法を共有すべき内容と実感しました。

ふたつき子ども歯科 二木 昌人



新入会員紹介



今回入会させて頂きました、大町です。開業地は粕屋町で空港と福岡インターの間辺りです。開業年数は24年程になりました。

昨年、歯科医師会で中田先生の口腔機能発達不全症のお話を聞かせて頂いた折に、本会の事を知りました。

小児歯科専門医ではなく一般歯科開業医ですが、お許しがありましたので入会の運びとなりました。

臨床医としてずっと小児患者さんは診させて頂いておりますが、自分流の診療ですので、諸先生方のご指導を賜れば幸いです。どうぞ宜しくお願い致します。

大町歯科医院 大町 浩二先生



編集後記

親の介護に役立つだろうと、多職種連携の仕事に関わったのがきっかけで、ここ5～6年、地元歯科医師会の在宅歯科医療関係の仕事をさせていただいています。

先日、福岡県歯科医師会で関連する郡市区の先生方と話し合いがあり、高齢者以外で医療的ケア児等の訪問歯科診療を受け入れているか、議題に上がりました。医療的ケアが必要な子供の7割は、何らかの形で歯科が関与し、実際に2～3例訪問して口腔ケア等を行ったとの報告でした。

私の地域では、まだ医療的ケア児の訪問依頼はありませんが、依頼された時、他職種の方とどのような連携をとり、どのような事が出来るか考える機会となりました。

今後、集談会でも事例報告を含めた勉強会が必要かとも思います。

廣田歯科医院 廣田 和子